# 「テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした繊維業界の人材育成の振興」における成果と今後の展望　I

## －産学連携事業活動内容と学生アンケート結果の考察－

"Human Resource Development in the Textile Industry
Based on the Education in the Textile Material Center"
Achieve Success and Future Prospects Part I:
Consideration from Industry-Academia Collaboration Project
Activity Contents and Student Questionnaire Results

中谷　友机子　NAKATANI　Yukiko
村上　眞知子　MURAKAMI　Machiko
柴田　佐和子　SHIBATA　Sawako
福村　愛美　FUKUMURA　Manami
太田　幸一　OHTA　Kouichi

Abstract

Gifu City Women's College signed the corporation agreement with Textile Material Center and Hashima City about the industrial-academic collaboration in 2017, in which these three organizations collaborated each other for purposes of development of human resource in the textile industry of Bishu textile area based on the education in Textile Material Center and enhancement of dissemination about these center and area. Authors designed the additional curriculum based on the ordinal major one as to visiting textile mills and company, listening the fashion trend seminars, and discussing with textile designers under the supports of Hashima city and the Textile Material Center. On the other hand, academic staff hold the workshops as to wool needle-punch works for the young people. In this paper, authors analyzed results of students' assessment about these projects and discussed for the next stage of this kind of industrial-academic collaboration.

Keywords: Textile Industry, Bishu Textile District, Textile Material Center, Human Resource Development, Industry-Academia Collaboration, Fashion/Textile Education

### 1. はじめに

生活デザイン学科ファッション専修では、いわゆるファッション産業の川上・川中の知識や知見を深めることを目的として、尾州産地の工場見学、産地で活躍する技術者やデザイナーとの交流、素材トレンドセミナーの聴講などの学外研修を実施し、地域の繊維産業に対する理解を深めてきた。また、ファッション産業に携わる人材に必要とされる繊維製品の製造工程、技術に対する理解を深めてきた。これらの実績を踏まえて、2017(平成 29)年 3 月 28 日(火)、本学は、羽島市と岐阜県毛織工業協同組合テキスタイルマテリアルセンターと、「テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定」を結び、羽島市役所において、協定書締結式が行われた。協定の目的として、「尾州産地の課題に適切に対応し、次世代の繊維業界を担う人材育成・確保を図り、産地の発展に資すること」を提議した。この目的を遂行するために、3 者は、以下に示す 2 項目について連携、協力することとした。

(1)テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とし、次世代の繊維産業を担う人材育成と確保のための取組を推進すること。

(2)尾州産地及びテキスタイルマテリアルセンターの情報発信を推進すること。

本協定に基づき、本学は、テキスタイルマテリアルセンターを利用した専門課程のカリキュラムを策定し、授業の一環として学外研修活動を行うとともに、尾州産地及びテキスタイルマテリアルセンターの情報発信として、現地での公開講座などを提供し実施することとした。

協定に基づく産学連携事業は、2017(平成 29)年度から2020(令和 2)年度の 4 年間である。最終年度は、COVID-19の影響で、前期の事業はやむなく中止せざるを得なかった。

本論文では、年度別の内容を紹介するとともに、それぞれの研修に対する学生アンケートの結果から、産学連携事業の成果と今後の展望について考察を深めていく。

## 2. 産学連携事業の概要

尾州とは、木曽川流域の愛知県尾張西部地域から岐阜県西濃地域をさし[1)]、日本最大の毛織物産地である。岐阜県羽島市にあるテキスタイルマテリアルセンターは、1950年代～1970 年代の「ガチャ満景気」といわれた時代の、技術を駆使した高品質な素材から、現在のテキスタイルデザイナー開発素材まで、日本全国のアパレル・ファッション素材を集めた国内最大のテキスタイル資料館である。岐阜県毛織工業組合テキスタイルマテリアルセンター専務理事山田幸士氏、(株)イワゼン社長岩田善之氏の支援により、学生たちは表 1 から表 4 に示す紡績から染色整理加工に至る様々なテキスタイル関連工場を見学し、旧来の伝統的な技術から最新のコンピュータ制御による技術まで、尾州産地を支える様々な現場で見学と研修を重ねてきた。産学連携事業では、地域の生産者に向けて開催されるシーズンごとの素材トレンドセミナーにも参加し、最新の情報を聴講する機会も得た。

表 1～表 4 は、2017(平成 29)年度から 2020(令和 2)年度の産学連携事業活動の日時、研修内容を示しているが、学生の学外研修活動は、主に下記に示す 3 点である。

(1) ファッションカラーと素材トレンド情報に関するセミナーの聴講

(株)東洋紡 FPI で 25 年間にわたりテキスタイル開発やトレンド情報研究に携わっていた車純子氏のファッションセミナーに、ファッション専修の専門科目「アパレルマーチャンダイジング」を履修する 2 年生が聴講した。授業ではリアルな商品企画の演習に応用し、実際のファッションビジネスにも活用できるような課題制作へとつなげた。

(2) 尾州産地の紡績、織物・編物、染色整理加工等の工場見学

紡績工場は主に東和毛織(株)（愛知県一宮市／織編糸、手芸糸等）、(株)長谷川商店（愛知県一宮市／シルク糸、ホールガーメント等）、小笠原(株)（愛知県一宮市／意匠糸等）を見学した。

織物・編物工場は主に葛利毛織工業(株)（愛知県一宮市／ションヘル機による製織）、宮田毛織(株)（愛知県一宮市／丸編機による製編等）、(有)マルセンニット工業（岐阜県羽島市／経編布）、山洋毛織（岐阜県羽島市／ションヘル機による製織）、伊東紡織（岐阜県羽島市／ションヘル機によるジャカード製織）、鵜飼毛織（岐阜県羽島市／ジャカード機による製織）、(株)維研（愛知県江南市／コンピュータ制御ジャカード織機による製織）、木玉毛織(株)（愛知県一宮市／ガラ紡による綿紡績、ションヘル機による製織）を見学した。

染色整理加工等の工場は主に三星染整(株)（岐阜県羽島市／染色整理加工等）、茶仙染工(株)（愛知県一宮市／枷染め、チーズ染めによる糸の染色）、羽島起毛（岐阜県羽島市／起毛加工）、艶清興業(株)（愛知県一宮市／合繊中心の染色整理加工）を見学した。

これらの工場見学は、特に「ファッション造形演習Ⅱ」、「ファッションマーケティング」の授業を履修している 1 年生が、アパレルやファッション雑貨等のマテリアルとして、素材の特徴、組織の構造や加工について理解を深めるための製造過程を見学した。さらに、「テキスタイル素材演習」を履修している 2 年生を対象に、1 年生の学外研修の上積みとして、より詳細な紡績糸の製造工程、編布、ジャカード織物の製編・製織工程を実際の現場工場で学び、素材に対する理解を深めた。

なお、本研修で訪問する研修先の調整は、前述テキスタイルマテリアルセンター山田幸士氏による。

(3) テキスタイルマテリアルセンターでのテキスタイルデザイナーによる「ウール講座Ⅰ・Ⅱ」の聴講と議論

講師は(株)イワゼン社長岩田善之氏と(有)カナーレ社長足立聖氏で、両氏とも第一線のファッションデザイナーにテキスタイルを提案・提供している、尾州産地を代表するテキスタイルデザイナーである。ウールの基礎知識、特殊な変化組織織物、まさに現在市場に出回っている織・編布の紹介、糸の種類や特徴等、実際のテキスタイルを視覚、触覚を駆使して研修する機会となった。「ウール講座Ⅰ」は、生活デザイン学科の全専修学生を対象とした「生活材料学」の一環で実施した。一方「ウール講座Ⅱ」は、ファッション専修の専門科目「ファッションデザイン演習」の中で実施し、素材に対する学生の視野と理解を深めることができた。

産学連携事業活動の一環として、本学教員による公開講座『親子羊毛フェルティング体験』も行った。地域の小中学生に地域の産業への理解を深める目的で、羽島市周辺の親子を対象とし、羊毛スライバーを使用したニードルパン

表 1. 2017(平成 29)年度　産学連携事業活動

| 日　　時 | 場　　所 | 産学連携事業内容 | 対象学生 |
|---|---|---|---|
| 5 月 19 日(金)<br>13:30～15:30 | テキスタイルマテリアルセンター | 車純子氏素材トレンドセミナー聴講<br>『2018 年 S/S カラー＆素材傾向』 | FD2 年生 19 名 |
| 5 月 30 日(火)<br>12:30～18:00 | ①東和毛織(株)<br>②宮田毛織(株) | ①織編糸・手芸糸等の紡績工場見学<br>②ニット地、丸編工場見学 | FD2 年生 19 名 |
| 6 月 15 日(木)<br>8:30～12:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②(有)マルセンニット工業 | ①ウール講座Ⅰ　講師：岩田善之氏<br>②経編工場見学 | 生活デザイン学科 1 年生 52 名 |
| 10 月 19 日(木)<br>12:30～18:00 | ①葛利毛織工業(株)<br>②三星染整(株) | ①ションヘル機による製織工場見学<br>②染色整理加工工場見学 | FD1 年生 17 名 |
| 10 月 26 日(木)<br>13:30～18:00 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②茶仙染工(株) | ①車純子氏素材トレンドセミナー聴講<br>『2018/19 A/W テキスタイルトレンド』<br>②糸染め(かせ染め、チーズ染め、かすり染め)工場見学 | FD1 年生 17 名 |
| 11 月 10 日(金)<br>12:30～18:00 | テキスタイルマテリアルセンター | ①ウール講座Ⅱ<br>講師：足立聖氏、岩田善之氏 | FD1 年生 17 名 |
| 11 月 26 日(日)<br>13:00～16:00 | テキスタイルマテリアルセンター | 本学教員による公開講座<br>『親子羊毛フェルティング体験』 | 羽島市周辺<br>親子 44 名 |

表 2. 2018(平成 30)年度　産学連携事業活動

| 日　　時 | 場　　所 | 産学連携事業内容 | 学　　生 |
|---|---|---|---|
| 4 月 23 日(月)<br>13:30～15:30 | テキスタイルマテリアルセンター | 車純子氏素材トレンドセミナー聴講<br>『2019 年 S/S 素材トレンドセミナー』 | FD2 年生 17 名 |
| 5 月 29 日(火)<br>12:30～18:30 | ①東和毛織(株)<br>②宮田毛織(株)<br>③(株)維研 | ①織編糸、手芸糸等の紡績工場見学<br>②ニット地、丸編工場見学<br>③ジャカード織見学 | FD2 年生 17 名 |
| 6 月 19 日(木)<br>8:30～18:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②(有)マルセンニット工業<br>③山洋毛織 | ①ウール講座Ⅰ　講師：岩田氏<br>②経編工場見学<br>③ションヘル機による製織工場見学 | 生活デザイン学科 1 年生 59 名 |
| 10 月 25 日(木)<br>12:30～18:00 | ①葛利毛織工業(株)<br>②羽島起毛<br>③三星染整(株) | ①ションヘル機による製織工場見学<br>②素材起毛工場見学<br>③染色整理加工工場見学 | FD1 年生 17 名 |
| 10 月 29 日(月)<br>13:30～16:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②茶仙染工(株) | ①車純子氏素材トレンドセミナー聴講<br>『2019‐20A/W テキスタイルトレンド』<br>②糸染め(かせ染め、チーズ染め、かすり染め)工場見学 | FD1 年生 19 名 |
| 11 月 30 日(金)<br>12:30～17:00 | テキスタイルマテリアルセンター | ①ウール講座Ⅱ<br>講師：足立聖氏、岩田善之氏 | FD1 年生 19 名 |
| 11 月 11 日(日)<br>13:00～16:00 | テキスタイルマテリアルセンター | 本学教員による公開講座<br>『親子羊毛フェルティング体験』 | 羽島市周辺<br>親子 44 名 |

チで膝掛けを制作するワークショップである。羊毛繊維が持つ特徴の一つであるスケールの絡み合いを利用した技法で、楽しく羊毛に触れながら、ウールの良さと特性を伝授することができた。次世代の子供達へのテキスタイルへの興味関心を高め、地域の産業への理解を深めることに、寄与したと考えている。繊維産業で活躍する次世代の人材として今後の成長に期待したい。

4 年間にわたる産学連携事業活動は、学生の研修に対するアンケートで評価した。2017 年、2018 年にマテリアルセンターを起点とするテキスタイル学外授業についても、2 年間同じ内容で学生アンケートを実施した。本報では、「生活材料学」履修学生を対象に実施した工場見学と「ウール講座Ⅰ」後のアンケートについて、研修内容とアンケート結果から、教育面と人材育成の面から成果と課題を考

表 3. 2019(令和元)年度　産学連携事業活動

| 日　　時 | 場　　所 | 産学連携事業内容 | 学　　生 |
|---|---|---|---|
| 4 月 16 日(火)<br>13:30～15:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②伊東紡織 | ①車純子氏素材トレンドセミナー聴講『2020 年 S/S 素材トレンドセミナー』<br>②シャトルジャガード織　製織見学 | FD2 年生 18 名 |
| 5 月 21 日(火)<br>12:30～18:30 | ①東和毛織(株)<br>②(株)維研<br>③(株)長谷川商店 | ①織編糸、手芸糸等の紡績工場見学<br>②コンピュータ制御ジャガード織見学<br>③シルク糸、ホールガーメント見学 | FD2 年生 18 名 |
| 6 月 21 日(金)<br>8:30～18:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②木玉毛織(株) | ①ウール講座 I　講師：岩田善之氏<br>②ガラ紡見学 | 生活デザイン学科 1 年生約 70 名 |
| 10 月 17 日(木)<br>12:30～18:30 | ①葛利毛織工業(株)<br>②艶清興業(株) | ①ションヘル機による製織工場見<br>②合繊中心の染色整理加工見学 | FD1 年生 17 名 |
| 10 月 29 日(月)<br>13:30～16:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター<br>②茶仙染工(株) | ①車純子氏素材トレンドセミナー聴講『2020-21A/W テキスタイルトレンド』<br>②糸染め(かせ染め、チーズ染め、かすり染め)工場見学 | FD1 年生 17 名 |
| 11 月 29 日(金)<br>12:00～17:00 | テキスタイルマテリアルセンター | ①ウール講座Ⅱ<br>講師：足立聖氏、岩田善之氏 | FD1 年生 17 名 |
| 11 月 23 日(日)<br>13:00～16:00 | テキスタイルマテリアルセンター | 公開講座『親子バッグ制作体験』 | 羽島市周辺<br>親子 30 名 |

表 4. 2020(令和 2)年度　産学連携事業活動

| 日　　時 | 場　　所 | 産学連携事業内容 | 学　　生 |
|---|---|---|---|
| 4 月～6 月開催 | COVID-19 感染防止のため前期の学外研修は中止とした。 | | |
| 10 月 9 日(金)<br>13:00～17:30 | ①小笠原(株)<br>②木玉毛織(株) | ①紡績(意匠糸)の見学<br>②ガラ紡見学 | FD1 年生 12 名 |
| 10 月 29 日(木)<br>13:00～17:30 | ①テキスタイルマテリアルセンター | ①西沢智裕氏セミナー聴講『2021-22A/W テキスタイルトレンド』 | FD1 年生 12 名 |
| 11 月 30 日(月)<br>12:30～17:00 | テキスタイルマテリアルセンター | ①ウール講座Ⅱ<br>講師：足立聖氏、岩田善之氏 | FD1 年生 12 名 |
| 11 月開催 | COVID-19 感染防止のため『親子制作体験』は中止とした。 | | |

察した。

### 3.　学生アンケートの結果と考察

生活デザイン学科では、学科の基礎科目として、ファッション分野の「生活材料学」を開講しており、あらゆるものつくりに必要となる素材の特性について、それぞれの専門領域を学ぶ基礎であると位置付けている。約半日を費やし、センター近隣の工場見学と、センターにある、丸山慶太、中野裕通といったファッションデザイナーの尾州コレクション発表作品の見学・着装と、「ウール講座 I」では資料館での素材閲覧と講師によるレクチャー・ディスカッションを行なった。受講者が約 60 名であることから、全体を 2 グループに分け、実施した。学外研修は、初回から 10 講義を経たあたりで開講される。「ウール講座 I」ではセンター資料館にある 10 万点を超える布地サンプルの中から、学生が個々の主観で一点のテキスタイルを選択し、その後岩田講師を囲んでのプレゼンテーションを行う形式をとっている。学生が選ぶテキスタイルは必ずしもウールであるとは限らない。学生の選択に際しては、本学教員も素材に関する説明などの助言を行なっている。

筆者らは、学生が本研修をどのように捉え自身の専門に活かそうとしているのか、また産学連携事業の観点から実施の成果をどのように捉えるか、という観点から研修実施後にアンケートを行なった。アンケートは、研修後筆者らの直近の授業の中で行なった。回収率は 100%である。無記名で回答してもらうが、専修による観点の違いなどを考察するため、設問の中に所属専修を入れた。なお、調査は本事業開始後 2 年にわたって実施した。図中、それぞれの専修は、ファッション専修:FD、建築インテリア専修:ID、ヴィジュアル専修:VD と表記している。

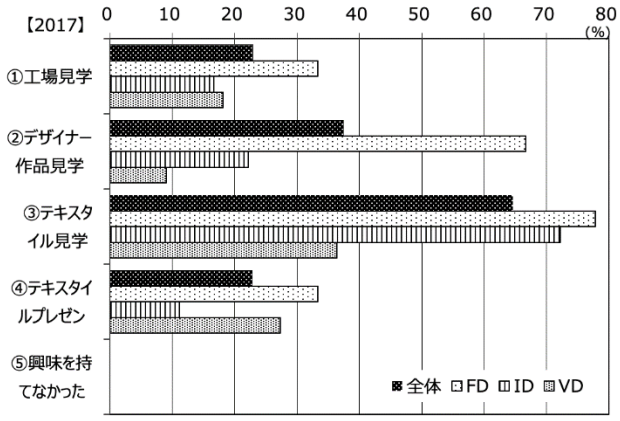


図 1. 興味をもった内容(複数回答), 2017 年

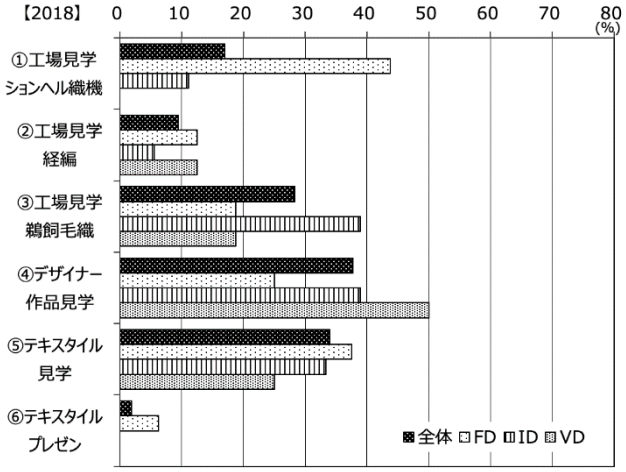


図 2. 興味をもった内容(複数回答), 2018 年

図 1、図 2 は、興味を持った研修内容についての設問の結果（複数回答）を示す。2018 年には工場見学を 3 件としたため、日程的にはややタイトになっている。両年ともセンター資料館のテキスタイル見学に多くの学生が興味を示しているが、特に 2017 年ではその割合が高く、建築インテリア専修 I D 専修の学生も高い興味を示している。また、デザイナーの作品を手にとってみる経験は、ヴィジュアル専修 VD の学生が興味を示している。2018 年は工場見学が多かったため、センターでの研修に集中できなかったのではないかと思う。自由記述欄には、資料館の多くのテキスタイルについて、閲覧に時間を多くとって欲しいという学生の声がみられた。また、この閲覧によって、制作へのモチベーションが上がったという記述もみられた。資料館のテキスタイル素材は常時展示されている。高い技術で織られた高級織物、繊細なニット、最新素材の織物など、様々な素材が収集展示されている。「興味を持った内容」、「もっと時間をかけたかった内容」としてアンケートの結果で「テキスタイル見学」が最も多くなっているのは、実際に素材を目で見て手に取り手触り、肌触り（風合い）を直に評価できることが要因となったと考える。

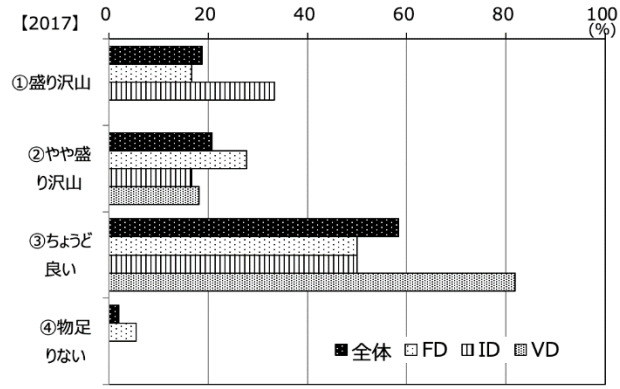


図 3. 研修量, 2017 年

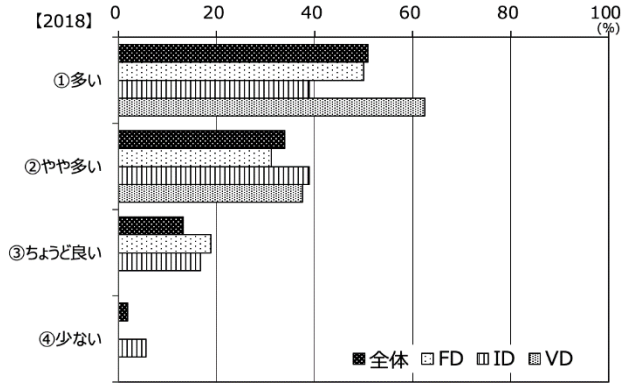


図 4. 研修量, 2018 年

図 3、図 4 は、研修内容の量についての設問である。2017 年では、「ちょうどよい」との回答が 60～80%で、ほぼ妥当な量だと考えられるが、残りの学生は、やや盛りだくさんであると考えており、多くのテキスタイルに触れる時間をもう少し長く欲しかったという学生の声の反映とみることができる。研修成果との関連の中で適切な研修量を見出していく必要がある。2018 年の結果には、全体として内容が多過ぎたことが反映されている。

図 5、図 6 は、もっと時間をかけたいと評価した研修内容に関する設問の結果を示す。2017 年、2018 年ともテキスタイルの閲覧に時間をかけたかったという学生の割合が多いことがこの結果からもわかる。特にヴィジュアル専修 VD の学生にその傾向が強い。また、2017 年に実施した工場見学は経編布製造工場で、2018 年にも同工場を訪問している。経編布自体はアパレルの中心的素材ではなく、製造も編機と織機の中間的な機械で行われるため、興味を持ちにくいと考えられる。その結果として、2017 年ではテキスタイル見学、デザイナー作品の見学に比べて、工場見学の割合は少ない。2018 年では、工場見学の割合は多くはないが、デザイナー作品見学より多い。特に、ションヘル織機を用いた製織工場見学は、ファッション専修 FD、建築インテリア専修 ID で多い。現在尾州産地で用いられているションヘル織機は、約 90 年前から使われているド

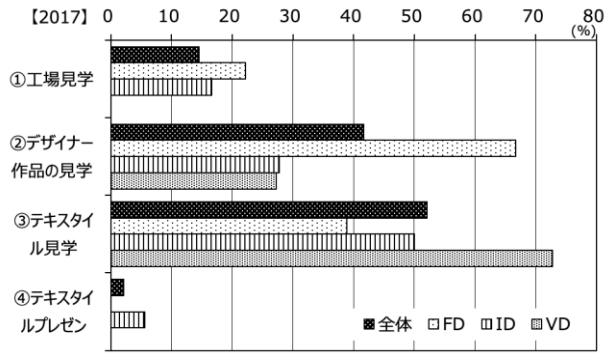


図 5. もっと時間をかけたかった研修内容, 2017 年

イツ・ションヘル社製の織機で、戦後の高速織機とは比べ物にならないくらいのゆっくりした速度で稼働する。その分、織糸にかかる負荷が小さく、羊毛のふくらみ感を保った、風合いの優れた羊毛織物が生産される。のこぎり屋根の下で、機械油で黒く光る織機と、そこに飛び交う飴色に輝くシャトルを「ガッチャンガッチャン」という響きとともに見ることができる機会に対して、学生たちが価値を見出していることに、研修の意義を感じる。世界のラグジュアリーブランドで愛用されている素材が、ここから生まれているという講師の説明に深く頷いていた。

図 7、図 8 は、産地研修で見てみたい工場を業種別に質

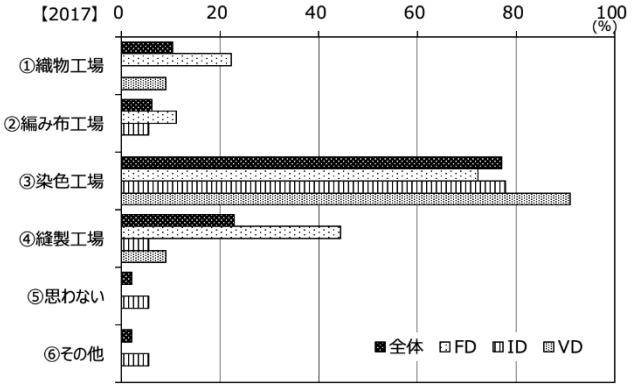


図 7. 産地見学で訪問したい工場(複数回答), 2017 年

問（複数回答）した結果である。2017 年は 1 工場、翌年は業種の違う 3 工場を訪問したが、いずれも染色工場は含まれていない。両年とも、約 8 割の学生が染色工場を訪ねてみたいと回答しており、興味深い。尾州地域にある染色工場は、糸染め（枷染め、チーズ染め）や、反ごとの後染めが中心で、その他、捺染（プリント）やインクジェットプリンターによる印刷などがある。また、特殊な染色技法として注染（東京、大阪、浜松など）や絞り染め（名古屋有松など）の技法もあり、それぞれ域内で行われていたり、他地域に産地があったりする。学生たちが、どのような染色技法をイメージして染色工場の訪問を希望しているかは、この設問と回答ではわからないが、デ

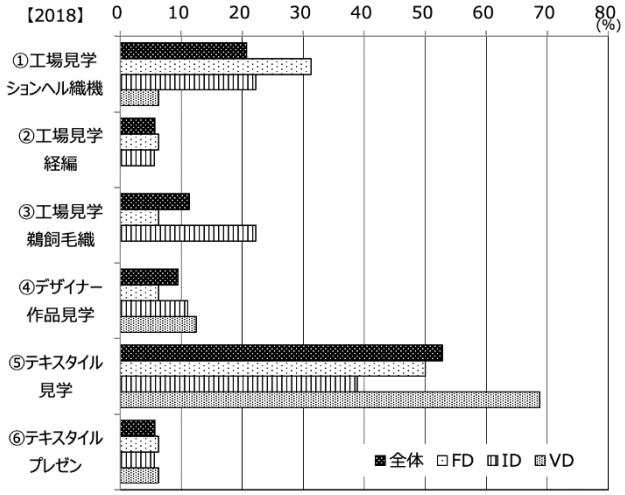


図 6. もっと時間をかけたかった研修内容, 2018 年

ザインや色彩学を学んでいる学生には、アパレルや広く生活空間に関わるテキスタイルにおける色彩発現の現場に興味を持つのは当然とも言える。

図 9、図 10 は、資料館でテキスタイルを選ぶ際、何を（どんなアイテム）をイメージしたかの設問に対する回答の結果を示す。また、その際選択基準として何を優先したかの結果を図 12、図 13 に示す。両年ともアパレルを念頭に置いてテキスタイルを見ているのは当然ではあるが、

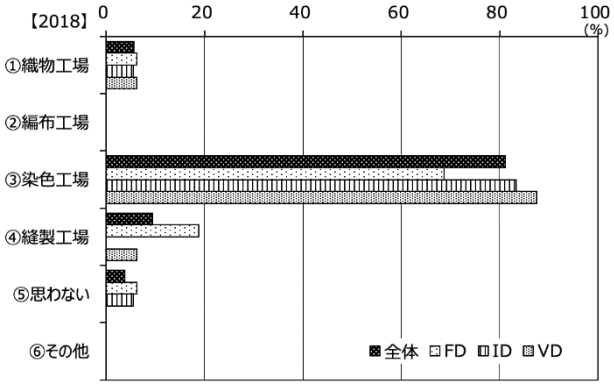


図 8. 産地見学で訪問したい工場(複数回答), 2018 年

「アパレルありき」の観点を指示した訳ではない。しかし、ファッション専修の学生は無意識のうちに衣服をイメージし、建築インテリア専修の学生はインテリア素材として、さらにヴィジュアル専修では、アーティスティックなものをイメージしている学生の割合が多い。2017 年では「アート」の対象としてテキスタイルを捉えている学生は、ファッション FD、建築インテリア ID にはいなかったが、2018 年ではどの専修の中にもいることは、興味深い。無意識のうちに「テキスタイル＝アパレル」という概念を持っているのも面白い。図 11、図 12 では、テキスタイルを選ぶときの優先する性能では、触感、芸術性、素材などが比較的多いことがわかる。反対に、色というのは、全体の

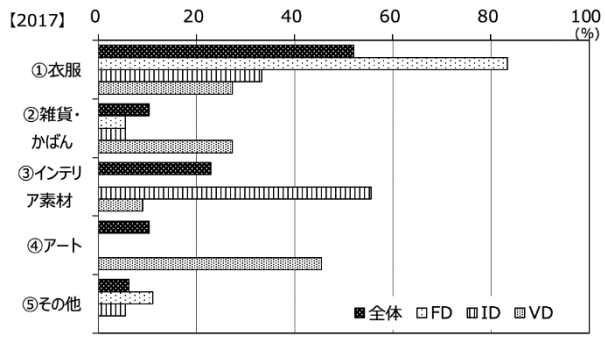


図 9. テキスタイル選択時にイメージしたアイテム(複数回答), 2017 年

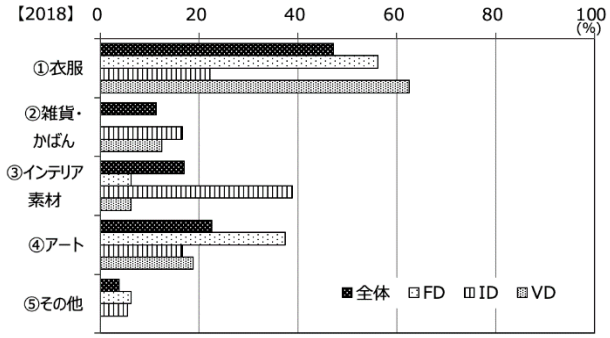


図 10. テキスタイル選択時にイメージしたアイテム(複数回答), 2018 年

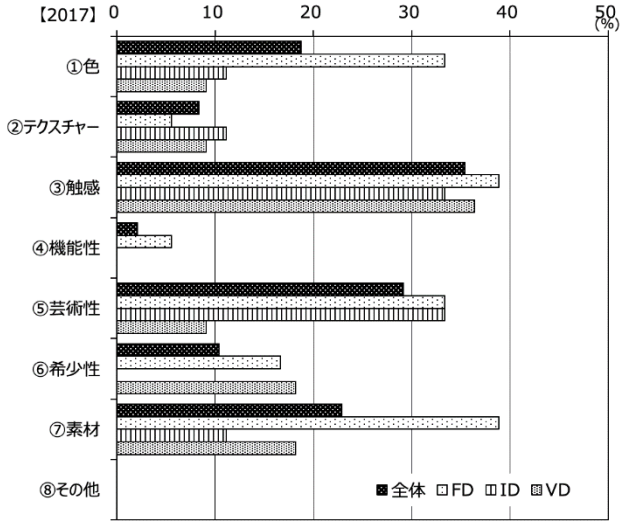


図 11. テキスタイル選択時に優先した性能, 2017 年

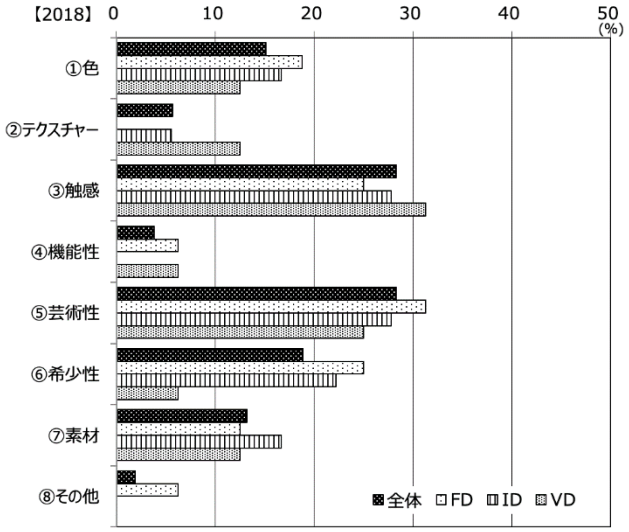


図 12. テキスタイル選択時に優先した性能, 2018 年

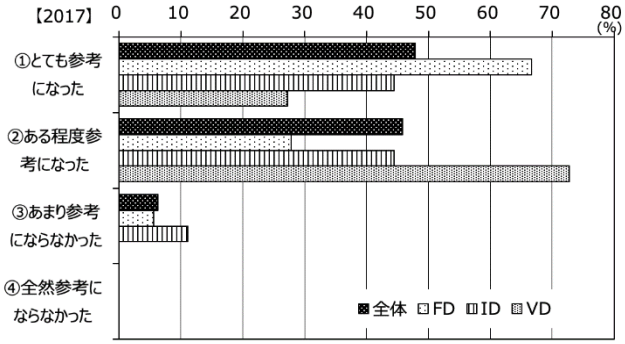


図 13. テキスタイル選択時の講師・教員のアドバイス, 2017 年

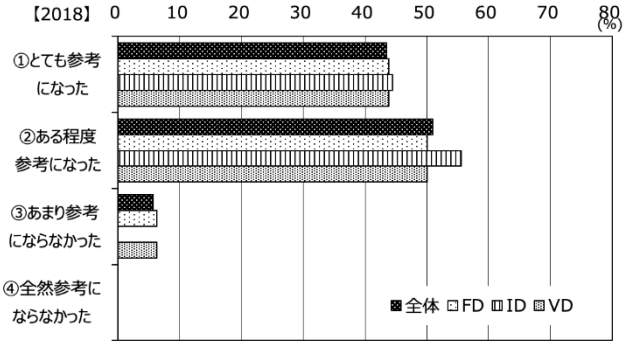


図 14. テキスタイル選択時の講師・教員のアドバイス, 2018 年

中では大きな要素ではないことがわかった。

図 13、図 14 は、テキスタイルを閲覧、選択する際、講師や教員のアドバイスが、参考になったかについての結果を示す。いずれの年においても、学生たちは、教員や講師のアドバイスを「参考になった」と評価している。

本研修では、テキスタイル資料館の見学を「研修の目玉」的に位置付けて行なってきた。しかし、テキスタイルに関して、経験も知識も乏しい学生に対して、限られた時間で、膨大なテキスタイル資料を有効に人材育成に役立てる方法としては、最良の方法であるかは、再考する必要がある。さまざまなテキスチャー、パターン、カラー、マテリアルの宝庫であり、ファッションのみならずデザインを学ぶ学生にとっては、センター資料館はまさに宝箱である。テキスタイルデザイナー、ファッションデザイナーがテキスタ

イルアーカイブとして資料館を利用するのとは、別の利用方法があっていいのではないかと考える。

## 4. まとめ

産地研修自体は、3 者協定締結の数年前から、生活デザイン学科の教員がマテリアルセンターの支援のもとで行なってきた事業で、その実績をベースとして、この 3 者協定に至った。また、尾州地域にある一宮ファッションデザインセンターが実施する人材育成事業「翔工房」[2)]にも、本学学生が毎年のように参加しているが、その実績も踏まえての支援事業と捉えている。今回の産学連携協定に基づく研修では、ファッションを学ぶ学生ばかりでなく、広くデザインを学ぶ学生にとっても、地域の大きな産業資産に触れてもらうことができた。尾州地域を訪れる学生たちは、本学のみならず全国に及ぶ。本研修の実施後アンケートだけでは、人材育成の成果をどのように評価するかは、すぐに答えは得られないが、多くの学生が尾州産地に目を向ける機会になった。「のこぎり屋根の下の宝物」は、学生たちに、歴史ある実績の認識を示し、これからの進化への期待を促したであろう。

産地の活性化と人材育成は、どの産業どの地域においても、大きな課題である。とりわけ繊維産業においては、産業自体の縮小と人材の高齢化が著しく、課題解決は産地の存続に直結する。一方で、筆者らは、地域とともにある高等教育機関として何をすべきか、どうすれば両者がともに発展できるかを考え続けることが必要である。デザインを中心とした教育機関が地域と連携して、地域の課題解決の拠点であり、地域に有益な人材を排出するために、どのような人材が求められているか、どのようなカリキュラムが必要かを、常に念頭に置いておかなければならない。一例として、スマートフォン・タブレット端末など情報機器の普及や SNS(Social Networking Service)の浸透といった高度情報時代の社会環境を念頭に置いた、新たな人材育成プログラムの検討などが挙げられるだろう。また、産地活性化の戦略のひとつとして ICT(Information and Communication Technology)を駆使した企業との連携の構築によるダイレクトプロモーションの企画・実践などにも目を向けることが必要であると考えられる。

持続可能な社会システム構築の歩みは、COVID-19 の蔓延で一層拍車がかかり、戦後築き上げてきた社会構造自体を変えようとしている。イージーケア性と鮮やかな色に溢れた合成繊維の衣服生活は、すぐにでも見直す必要が指摘されている。また、ビジネスシーンや日常の衣服自体も、働き方の変化等で大きく変わろうとしている。社会環境の変化、市場環境の変化にフレキシブルに対応できる産地であるために、産地に若い人材が常に活躍していることが必須であると考える。

**謝辞**

本事業を遂行するにあたり、羽島市商工観光課、岐阜県毛織工業協同組合テキスタイルマテリアルセンターに多大なご支援を賜りましたことを深謝いたします。特に、同専務理事山田幸士氏には、日程調整や研修環境の整備に、同組合副理事長岩田善之氏及び(有)カナーレ足立聖氏には、学生指導等に大きく関わってくださいましたことを重ねて深謝いたします。

また、学生の研修を受け入れてくださいました尾州地域の各社・各工場にも御礼申し上げます。

さらには、本研修を遂行するにあたり、生活デザイン学科の教員各位には、スムーズな学生の学外研修のために時間割調整等にご協力くださいましたことに深謝いたします。

参考資料

テキスタイルマテリアルセンターホームページ
( https://matesen.com/aboutmatesen/) (2021 年 5 月 23 日 アクセス)
地方創生　内閣府総合サイト
地方創生推進交付金の交付対象事業の決定について
平成 28 年度第 2 回　(平成 28 年 11 月 25 日)
(https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kouhukin/)
(2021 年 5 月 23 日　アクセス)

参考文献

1) 「尾州について」, http://bishu-japan.jp/
2) 一宮ファッションデザインセンター「翔工房」, https://www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/index.html

（提出日　令和　3 年　9 月　29 日）